

因果関係に関する次の記述のうち妥当なのはどれか。

1. 仮定された発症要因と、ある疾病に因果関係があると断定するための十分条件は、仮定された発症要因とその疾病の間に観察研究によって関連が認められることである。
2. 因果関係があると判断するためには、要因曝露が罹患より時間的に前であることが必要条件である。これは関連の整合性と呼ばれる。
3. 食塩摂取量が多いほど胃がんの罹患率が高いことが分かれば、食塩摂取と胃がんの因果関係を強く示唆することになる。これは関連の普遍性と呼ばれる。
4. ウイルスXに感染しなければ疾病Aに罹患せず、ウイルスXに感染すれば免疫がない者は全員疾病Aを発症することが分かれば、ウイルスXと疾病Aとの因果関係を強く示唆することになる。これは関連の特異性と呼ばれる。
5. 交絡因子は、発症要因には強く影響するが疾病には全く影響を与えない因子であり、交絡因子があると発症要因と疾病との間に因果関係があるように見える。